ヨルダン南部に分布する完新世の化石オアシス地形（沼池痕跡）とその古環境学的意義

Fossil Oases, the ancient swamps during the Holocene in the southern part of Jordan

鹿島 薫 [1]
Kaoru Kashima[1]

[1] 九大・理・地球惑星
[1] Earth and Planetary Sci., Kyushu Univ.

ヨルダンからエジプトにかけては現在、急激な砂漠化が進行中である。2006 年から 2007 年にかけて湖沼や湿地における水位変動を復元するため、両国において現地調査を行った。
ヨルダン南部の砂漠地帯の中に、池沼痕跡を示す地形、化石オアシス群を発見した。この化石オアシスは、ヨルダン南部の砂漠地帯に西南縁近くに立地し、最大で、幅 250 m、長さ約１ｋｍの面積を有する。その内部に直径 50 mから 100 mの円形のシンクホールが 5 － 7 個観察された。そしてシンクホール堆積物から産出した珪藻化石から、当時は淡水の池沼が広がっていたことが確認された。化石オアシスの縁部に、約 8500 年前に形成された新石器時代の住居址と、オアシスの水を用いるための利水施設が発掘されていることから、これが完新世初期における湿潤期に形成され、その後の気候の乾燥化で化石地形化し、その痕跡を留めるに至ったことが推定された。